

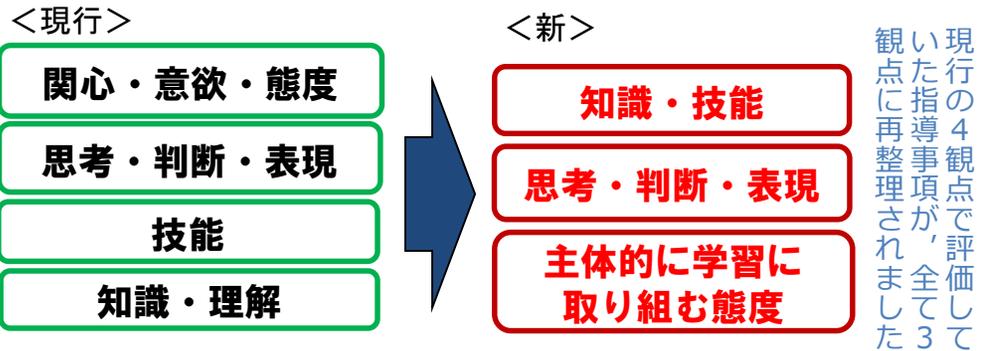
学習評価について（高等学校外国語科）

評価の観点と趣旨

「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やりとり]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」の五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、これらの3観点を育てます。

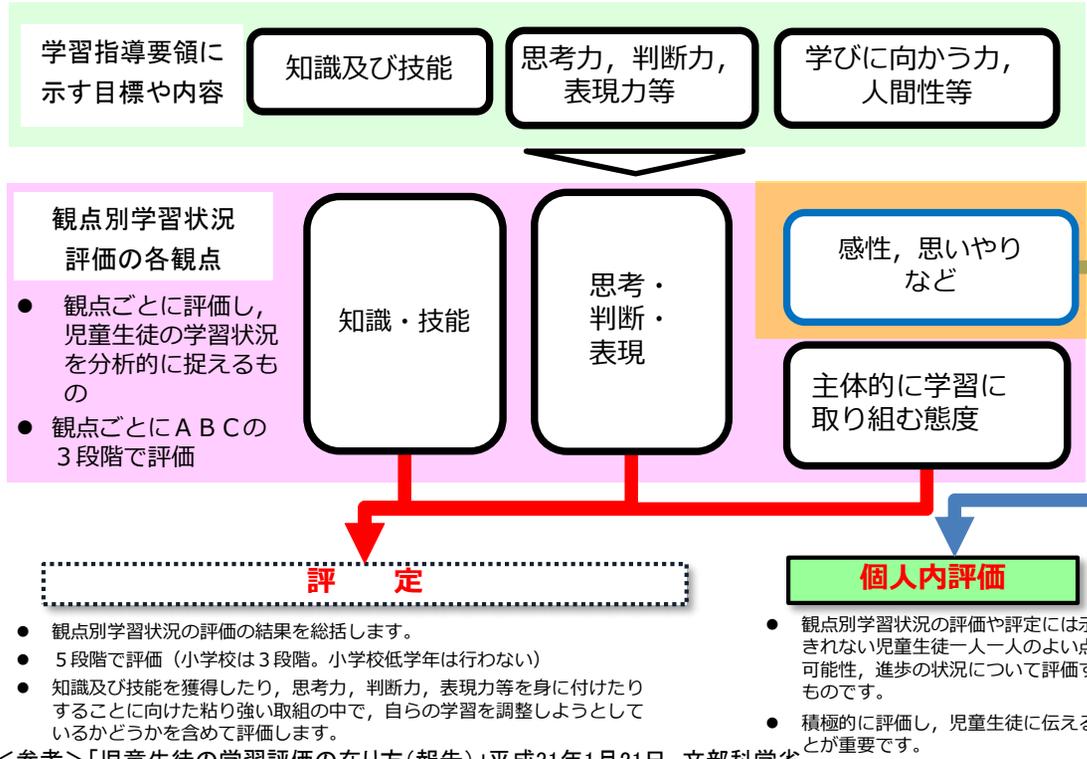
観点別学習状況の評価の観点の整理

資質・能力の三つの柱に基づいた目標や内容の再整理を踏まえて、観点別学習状況の評価の観点については、小・中・高等学校の各教科等を通じて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理されました。



学習評価の基本構造

各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況の評価するものです。（目標準拠評価）したがって、目標準拠評価は、集団内での相対的な位置付けを評価するいわゆる相対評価とは異なります。



知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めている。</p> <p>外国語についての音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる①実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。</p>	<p>下線部②の設定と、それらを生徒と共有することが必要です。</p> <p>② <u>コミュニケーション</u> を行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。</p>	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p>

○「知識」について
高等学校学習指導要領第8節「外国語」第2款各科目第1英語コミュニケーションⅠの「2 内容」の[知識及び技能]における「(1) 英語の特徴やきまりに関する事項」に記載されていることを指しており、それらの事項を理解している状況を評価します。

○「技能」について
下線部①に応じて、日常的话题や社会的な話題について、【「聞くこと」、「読むこと」】話されたり書かれたりする文章等を聞いたり読んだりして、その内容を捉える技能を身に付けている状況を評価します。

【「話すこと[やりとり]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」】情報や考え、気持ちなどを、話したり書いたりして表現したり伝え合ったりするために必要な技能を身に付けている状況を評価します。

日常的话题や社会的な話題について、【「聞くこと」、「読むこと」】話されたり書かれたりする文章等を聞き取ったり読み取ったりして、下線部に応じて、必要な情報を聞き取ったり読み取ったり、話し手や書き手の意図を把握したり、概要や要点などを捉えたりしている状況を評価します。

【「話すこと[やりとり]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」】下線部②に応じて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話したり書いたりして表現したり伝え合ったりしている状況を評価します。

【「聞くこと」「読むこと」】
下線部②に応じて、日常的话题や社会的な話題について話されたり書かれたりする文章等を聞いたり読んだりして、必要な情報を聞き取ったり読み取ったり、話し手や書き手の意図を把握したり、概要や要点などを捉えようとしている状況を評価します。

【「話すこと[やりとり]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」】
日常的话题や社会的な話題について、下線部②に応じて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話したり書いたりして表現したり伝え合ったりしようとしている状況を評価します。

<参考>「児童生徒の学習評価の在り方(報告)」平成31年1月21日 文部科学省

指導と評価の計画 例

評価の進め方

1. 単元の目標を作成する
- ↓
2. 単元の評価規準を作成する
- ↓
3. 「指導と評価の計画」を作成する
- ↓
- 授業を行う
- ↓
4. 観点ごとに総括する

1. 五つの領域別の「科目の目標」を踏まえて設定します。
2. 「単元ごとの目標」を踏まえて設定します。
3. 1,2を踏まえ、評価場面や評価方法等を計画する。どのような評価資料(生徒の反応やパフォーマンスなど)を基に、「おおむね満足できる」(B)と評価するかを考へたり、「努力を要する」(C)への手立て等を考へたりします。
4. 集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとに総括的評価(A, B, C)を行います。

外国語科：事例1(英語コミュニケーションI) [＜参考資料＞pp.53-59]
 キーワード：複数単元を通した「話すこと[発表]」における各観点の評価、指導と評価の計画から評価の総括まで

単元名 聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考えを理由とともに話して伝える。	内容のまとめ 「話すこと[発表]」ア、イ
---	--------------------------------

1 複数単元を通した「話すこと[発表]」における目標

(「英語コミュニケーションI」における「話すこと[発表]」ア及びイの目標を基に)

日常的な話題(日本の発明品)や社会的な話題(環境)について、聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考えなどを理由とともに話して伝えることができる。

2 複数単元を通した「話すこと[発表]」における評価規準(1の目標を基に)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・情報や考えを述べるために必要となる語彙や表現、音声等 【言語材料】 を理解している。 ・日常的な話題(日本の発明品)や社会的な話題(環境)に【話題】 についての情報や考えを理由とともに【内容】 話して伝える技能を身に付けている。	聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、【目的等】 日常的な話題(日本の発明品)や社会的な話題(環境)【話題】 についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに【内容】 話して伝えている。 同活動で評価	聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、【目的等】 日常的な話題(日本の発明品)や社会的な話題(環境)【話題】 についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに【内容】 話して伝えようとしている。
ほぼ同じ表記になっています。		

「単元の評価規準」の設定方法

「単元の目標」を踏まえて設定します。第2編で示している「内容のまとめ(五つの領域)ごとの評価規準」を基に、第3編で示されている手順に従って作成することができます。また、その手順を参考に、より重点化したり、より端的に記載したりすることもできます。

3 指導と評価の計画

＜参考＞「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
 国立教育政策研究所 教育課程研究センター(令和3年8月)

(1) 指導上の留意点

- 1で示した目標を達成するため、単元1, 2を通して「話すこと[発表]」の指導と評価を行います。
- (2) 各単元の指導と評価の計画を作成します。[＜参考資料＞p.54]
- (3) 単元2(1単元)の指導と評価の計画を作成します。[＜参考資料＞pp.54-55]

時	ねらい(■), 言語活動等(丸数字)	知	思	態	備考
1	■単元の目標を理解する。 ■海洋ごみの問題に関するプレゼンテーションを視聴して、課題やその解決策について情報や考えを共有する。 ①海洋ごみの問題について知っていることを、クラス全体で共有する。 ②...	記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確認に見届けて指導に生かすことは毎時間行う。	○	○	・単元を通して学習の振り返りは適宜行わせる。
2	■海洋ごみの問題に関する説明文を読んで、課題やその解決策についての情報を整理しながら、考えたことを話して伝え合う。 ①教科書の説明文を読み、海洋ごみの問題に関する問題やその解決策をメモにまとめる。 ②...				
4	■モデルスピーチを...				
5	■課題を説明し、... ①海洋ごみの... ②次の事項を含めた... ③モデルスピーチを... ④...				
6	■パフォーマンステスト...				
7	■パフォーマンステスト...				
後日	パフォーマンステスト				

記録に残す評価
 毎時間ではなく、十分に指導した後で行うことが必要です。単元の後半に評価場面を設定することが考えられます。○が付されている時間は極力全員の学習状況を記録に残すように努めますが、確実に全員分の記録を残すのはパフォーマンステスト及びペーパーテストの機会とします。

4 パフォーマンステストについて [＜参考資料＞pp.55-58]

内容：自分が住む町で環境をより良くしたいことについて、自分の考えを理由とともに話して伝える。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
a	「b」(おおむね満足できる)の基準を作成します。			「思考・判断・表現」 三つの条件 1 改善したい課題を示している。 2 なぜ改善したいのか理由を述べている。 3 改善するためにどのような行動をとりたいたのかを述べている。
b	・多少の誤りはあるが、理解に支障のない程度の語彙や表現を使って話して伝えている。 ・理解に支障のない程度の音声等で話している。	三つの条件を満たして話して伝えている。	三つの条件を満たして話して伝えようとしている。	
同活動で評価				
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	

5 観点別学習状況の評価の進め方 [＜参考資料＞p.58]

生徒	活動観察		パフォーマンステスト	「話すこと[発表]」の評価
	単元1	単元2		
知	c	b	b	b
思	b	b	c	b
態	b	b	b	b

「知」は単元1で「c」であったが、単元2、パフォーマンステストで「b」であったので、「b」としている。

評価する意義

学習評価は、生徒の学習状況を適時把握して指導者の指導の改善や生徒の学習改善に生かすことが重要です。○が付されていない授業においても、教師の指導の改善や生徒の学習改善に生かすために生徒の学習状況を確認します。確認結果は単元や学期末の評価を総括する際に参考にすることができます。